

平成30年度国有林モニター会議の開催

企画課

北海道森林管理局では、

国有林野の管理・経営に国民の皆さまの意見・要望を活かすことにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理・経営を行うことを目的として、一般の方から国有林モニターを公募しています。モニターの方には、2年間の任期の間に国有林野事業についての理解を深めていただくため、国有林についての情報提供やイベントの案内等を行うとともに、アンケートへの協力やモニター会議への出席などをお願いしています。

平成30・31年度モニター

現在は、平成30年4月から平成32年3月までの2年間、道内にお住まいの48名の方にモニターをお願いしています。モニターの性別・年齢構成は、図1のとおりです。東は根室市、北は稚内市、南は江差町まで道の30市町村にお住まいの方で、平均年齢は55歳、年齢層は20代から70代まで幅広く、様々な職業の皆さまです。このように、立場も経験も異なる皆さまから多様な意見をいただきたいと考えています。

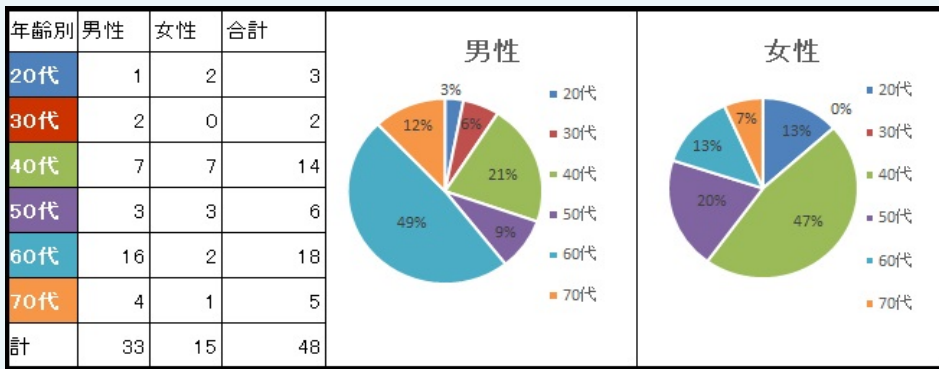


図1 平成30・31年度国有林モニターの構成

第一回アンケート結果

5月に国有林モニターの皆さまに対してアンケートを実施しました。

「北海道の森林」、「北海道森林管理局」、「国有林モニター」について質問し、モニターの皆さまから回答をいただきました。回答や自由記述欄の記入からモニターの皆さまが森林・林業の様々な面で関心が高いことを感じました。その一方で、森林管理局・森林管理署が開催したイベントに参加したことがない方が回答者の6割をこえるなど取組に対する課題も知ることができました。

図2はモニターの皆さまが森林・林業で興味

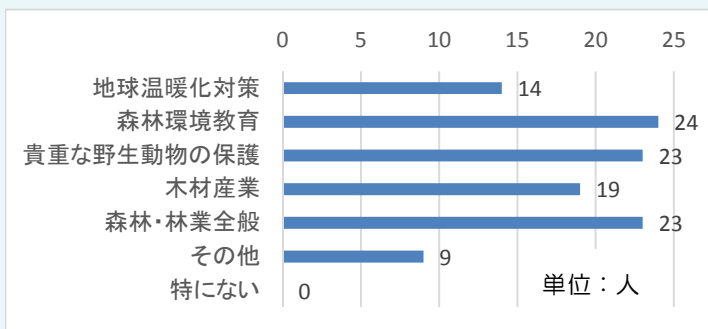


図2 森林・林業で興味を持っている内容

を持っていらっしゃる内容です。アンケート結果の詳細は北海道森林管理局のホームページに掲載しています（URLは次のページの下に記載）。

国有林モニター会議

平成30年7月7日に開催した国有林モニター会議には、32名の方にご参加いただきました。

はじめに新島北海道森林管理局長から、国土を守ることをはじめとした様々な機能を持つ森林の環境財としての価値や森林・林業の課題に国有林がどのように取り組んでいるか等の説明を行った上で、2年間のモニター



新島森林管理局長の挨拶

期間を通じて、森林の様々な面に興味を持っていただくとともに、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたいと挨拶がありました。

続いて、中西総務企画部長が、「北海道の国有林」の概要と今年度の重点取組事項について説明しました。

その後、モニターの皆さまから、応募した動機や、森林・林業や北海道森林管理局について、興味を持っていることなどを織り交せて自己紹介をしていただきました。

市町村の広報誌でモニターの募集を知ったことが応募動機となった方が多く、ご自身や身近な方



モニター会議会場

が森林を相続して今後どのように維持管理すべき

か検討している方、森林全般、山登り等に関心がある方、海外での経験やカーボンカウンセラーなどの勉強をした方など多種多様な場面で、森林に関わったり、国有林に関心を持たれていることがうかがわれました。

その後、「女性の林業労働力の活用」、「違法伐採への対策」、「木材の有効的な利用方策」などについて、意見交換



モニターからの自己紹介

が行われました。

会議に出席いただいたモニターの皆さまに、事後アンケートをお願いしたところ、日本の森林・林業の状況が理解できた、北海道森林管理局の今後の方向性や重点が理解できた等の感想をいただきました。

今後の予定

今年度は、秋に現地見学会を開催し、現場で国有林の事業や、森林・林業の様子をご覧いただき、より一層国有林に対する理解を深めていただく予定です。

また、広報誌等の情報をお届けしながら、北海道内や国内の森林・林業のおかれている状況や課題について、国有林モニターの皆さまと情報を共有するなかで、ご意見をいただきたいと思います。



昨年の現地見学会で見学した治山ダム
(苫小牧市)

平成30年度
国有林モニターアンケート結果に
ついてはこちら

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/apply/publicsale/tyousei/180604.html>